

50号記念に8月24日ご報告以来収穫出荷一気に走りきって、本日ようやくこの機会を頂く事ができました。

昨年の2度にわたる決定的集中豪雨水害とまではいかなくとも、地球の未完から完成への途中状態、温暖化に伴う異常な気象展開、春耕時は一週間ごとのさみだれ式の大雨のハザマをぬっての健やかに根張りしていける適土状態作り、ギリギリの決断での種まきであったご報告49号でさせて頂いたところでした。

この秋もさみだれ式の中雨という状態で11月初旬世間の農家さんが殆どの収穫と春の準備のプラウ耕、終了した時点で、私共は主力のお豆さん脱穀開始併せて、降雪、土の凍結前のプラウ耕、なんとしても完了にこぎつけたいところでした。

首尾一貫して全面積での無肥料自然栽培実施通し続けさせて頂いておりましたが、お豆さんの場合は「ぎんてぼう」高級菜豆は全て一旦手鎌でツルを切り、他の豆は地力及ばず背丈の及ばないところ部分的にかなりございますので、1日15km前後一列ずつ刈り倒して行く歩行式の小型機械が一粒でもムダにしないで大事にできるため、只管歩き続け後ろから70歳前後の出面(パート)のおばちゃん達が寄せ集めてきてくれる方式で、世間の農家さんの、そろって大きく育ち、体は楽しんで一気に収穫してしまう方式に比べ、しっかり乾燥もでき、今年のような年は有難かったです。

農協合併大型化にともない、中々人参洗い、ジャガイモ貯蔵選果くみこんでいただく事、困難となりじゃがいもは面積1/3に縮小、お豆さんへのシフト、ニンジンも女房と夜行による土付き選果とお盆以降3~5時間の睡眠時間に絞って努力してきた最後の追い込み。つかれもピークに達してましたが、なんとか大雪、悪天候になる事ないように祈りつつ、一方で先の見えた今年最終局1日1日徹夜も辞さないゾという覚悟で、11月4日~20日まで半月間のりきらせて頂きました。

もう3日あれば脱穀終了というところまできていた11月14日朝の天気予報で15日に積雪で17日~19日大雪になるという報道でした。

とにかく徹夜に近い努力してでもいけるところまで行き切ろうと、夜中気温が下がりシンシンと霜降りる中、車を暖めておいて、時々女房を仮眠させながらなんとか16日に脱穀終了。

15日の降雪も両隣の旭川、網走で5cm、北見はみぞれに変わり16日は乾き脱穀許されました。

17日から19日の大雪も北陸・東北の日本海側と北海道の大雪山までの半分で北見は大風のみで吹っ飛ばしてしまったため、15日の夜中から脱穀の合間をぬって来春準備のプラウ耕開始。

以来20日まで6日間、食事と体を暖めるための休憩と仮眠を夜中2時間とる強行軍の甲斐あってほぼ9割の面積のプラウ耕できたところで20日は日中もプラス気温とならない真冬日となったため、最後のプラウの刃が土にささらなくなり、ジ・エンド。

もし6日前の15日にこの状態になっていたなら、そして他地域のように大雪になっていたなら全く来春の準備できることなく、年を越し、更にもし今年の春のような来春であったなら、決定的遅れとなり、一年一作の北限の当地にあっては経営すらジ・エンドの可能性もございます。

31年前妻と開始したときからこんな状況でしたが、当時は若さにまかせて無我夢中、今は納得して淡々と日々すごしております。世間の農民も春・秋は読めない天候に悪戦苦闘しておられる中、私共は秋じま

いの最終局、それ以上の追い込まれ方にして、不思議と暗くなったり、投げ出したい気分にならないところが有難いところです。

年をとってハンディが増す程、夫婦いたわり合わなければ共倒れになりますので、お蔭様で年を重ねるごとに幸せな結びにならせて頂いているようです。

神即大自然、習い従い究極の尽しの一徹こそ真理の道と創始者の教えを具体的に体系化し、指し示して下さった恩師の志に生涯かけて近づかせて頂ければと夫婦して歩んできたこの道あったればこそ又、一方で地球環境崩壊に好む、好まざるに拘わらず進まざるを得ない仕組みの社会にあって私共の志を 120%受け止め本当に気と身を使いぎりぎりぎりの経営努力の中で、生産者と生活者の間におられて尽きられている皆様がおられたからこそ、大自然の生命力のみによって生産される農産物という賜も頂けているのかと想うとどんなに厳しい環境も、勇気をふるいたたせて立ち向かわせてくれる、と石としてそして、誠の皆様と繋げて下さる元気の源と受け止めさせて頂けるのかもかもしれません。

私共が歩み始めて 31 年祖父の代から 55 年たった田畑作北限地帯にあって、自然力のみ農地は肥料学の常識では考えられないような事がおきてまいります。

毎年一年生で反省の中から次年度はより向上しようと精神的にも技術的にも最善尽くす営みが無から有を生み出す結果を頂きつづける事ができていると想います。

そうでなければ世間の常識通りとっくに破綻していたでしょう。

無肥料自然栽培にきりかえて 20 年をすぎた頃、豆類の収量で言うなら、世間では通常 60kg 1 俵として、3~4 俵のところ、どうしても 30kg1 袋で 2~3 袋、場所によっては 1~2 袋というカベにぶつかります。

自家採種と作物ローテーションの工夫の限界から思い切った自然力活性化の休閒緑肥の研究試作を積み重ね 5 年間貸与頂いた、2 年間の放任後の伊藤さんからの借地実績をふまえ、昨年 2 度の集中豪雨被害の修復の傍ら、7 年間荒地と化していた 3 町歩の開墾した土地の成績が今年度素晴らしかったのはもとより、この 10 年地道にお借りした分、地力弱った自営地土作り努力してきた結果、祖父の代からの 55 年畑では大豆が世間並みな 3 俵強の反収。又 31 年前に国の融資で購入した 10 町歩区画の中では根菜類の過作から中々答えが出なかったのが、小豆で 3 俵の反収で世間より一寸おちる程度の収穫でした。

大豆も小豆も場所によっては一列ずつ刈り倒していく小さな歩行型のキカイですら熟練しないと外れてしまう小さな出来のところ随分ありましたが、一本一本の茎にびっちり豆のサヤがなり葉が全て落葉する収穫時には無駄な枝が全く見られないという状態でした。

本当に効率よく、全てを実りに結実しているという感じでした。

一方で、一般有肥地借り受けて、3 年目の無肥料自然栽培地の「ぎんてぼう」がすごいガサとなりながらそれなりにサヤをつけていても予想をはるかに下回る実入りで通称デキすぎというところもございました。

只、現時点で気のついた最善を次年度に最大限集中し尽し続けるならば、必ずや大自然の力を可能な限り受けとめる事ができる。無から有への道は必ず開けるという事は確かなようです。

とに角、許しある限り、与えて頂いている環境に感謝一杯で歩んで行きたいと想います。

未永くよろしく願ひいたします。